

指導のねらい

自分の立場や意図を明確にして話し合うために、様々な立場に立って意見をとらえたり、図表やグラフなどの資料や数値を根拠にして自分の考えを述べたりすることができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

- B ② 一 話し合いの中で出された意見を二つの立場に分ける。 正答率75.6%
- B ② 二 「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する。 正答率25.9%

学習指導要領における領域・内容

- 〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと
- イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。
  - ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

授業アイデア例

例1 様々な立場の意見をとらえる

- 学級で討論するテーマや議題を決め、それに対して賛成か反対のいずれかの立場に立つ。
- 賛成側と反対側のそれぞれの立場に分かれ、4~6人のグループで意見を出し合い、共通点や相違点を右のカードの①にまとめる。  
※ 同じ立場でも意見の内容に違いがあることを認識させる。
- 賛成側と反対側を交えて6~8人のグループで再度話し合い、相手側の意見の共通点や相違点をカードの②にまとめる。  
※ 賛成側と反対側のそれぞれの意見の内容を観点ごとに整理し、テーマや議題についての認識が深まるようにする。
- 両方の立場から意見を聞いた後に、最終的な自分の立場・意見をカードの③にまとめる。

カード(例)

議題	
賛成 ・ 反対	
① 自分たちのグループの意見	
【共通点】 …	【相違点】 …
② 相手側のグループの意見	
【共通点】 …	【相違点】 …
③ 最終的な立場・意見	

例2 資料や数値を根拠にして考えたことを話し合う

- 学級で協議するテーマや議題に応じて、必要な図表やグラフなどの資料を集める。

資料(例)：国語は乱れていると思うか

文化庁『平成19年度国語に関する世論調査』による

乱れていると思う(計)		乱れていないと思う(計)		分からない
79.5%【80.4%】		16.2%【17.0%】		
非常に乱れている 20.2%【24.4%】	ある程度乱れている 59.3%【56.0%】	余り乱れていない 15.1%【15.8%】	全く乱れていない 1.1%【1.2%】	4.3% 【2.5%】

【 】の割合は平成14年度調査結果

- 4~6人のグループになり、資料から分かったことや考えたことを話し合う。
- グループで話し合ったことを発表し、数値の使い方や根拠の明確さなどについて全体で話し合う。  
※ 教師は、下の発問①のように多面的な思考を促したり、発問②のように根拠が不十分な考えを提示して思考を揺さぶったりする。

【発問①】 「国語は乱れている」という立場から意見をまとめるとすると、根拠をいくつか示すことができますか。



教師

【発問②】 「平成19年度に国語が乱れていないと思う人がいるのは、言葉に興味をもっていない人が増えたからです」という意見は、表の中のどの数値を根拠にしていますか。